

確実にデータを守る — イミュータブルでコスト効率の高いバック アップ／リストア環境をWasabiで実現

“ハイパースケーラーのクラウドサービスではデータを取り出す時に予想できない課金が発生します。インシデントが起きて、いざクラウドからデータを取り出し復旧させようとする、それなりの追加コストが請求されますし、リストアテストの時でさえ、コストが発生してしまいます。公的な病院では予算を超過する費用については、追加予算申請が必要となります。その点Wasabiではデータを取り出すのに課金されないため、予算通りのバックアップシステム運用が可能です。”

春日井市民病院 医療情報技術センター 事務局 管理課 情報担当 馬場 勇人 氏

概要

春日井市民病院は、地域の基幹病院として医療サービスを提供しています。災害拠点病院にも指定され、市立病院として多様な地域医療ニーズに応えられる丁寧な診療を目指しています。地域の基幹病院では、日常はもちろん災害時にも確実にサービスを継続することが求められます。そのため、電子カルテを始めとするITシステムの信頼性や可用性の確保は極めて重要です。昨今、病院のシステムがランサムウェアの被害に遭い、医療サービスの停止を余儀なくされる事態が発生しています。春日井市民病院でもより強固なランサムウェア対策が急務であり、そこで導入したのはNECネットワークエスアイが提供する「S-iDC バックアップサービス with Wasabi」でした。

課題

病院をターゲットとするランサムウェア攻撃が相次ぎ、医療サービスが長期に亘り停止する事態が発生しています。各医療機関は、厚生労働省から出された「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」などを参考に対策しています。ただし春日井市民病院では、情報システムの担当者は医療情報技術センター 事務局管理課情報担当の馬場勇人氏含め少人数です。限られたリソースで高い安全性を確保し、それを適切なコストで実現したいと考えた馬場氏は、ガイドラインに加え米国国立標準技術研究所（NIST）が定めるサイバーセキュリティフレームワーク（CFS）も参考としました。

NIST CFSは、とるべき対策を識別、防御、検知、対応、復旧のステップに分けています。既存のセキュリティ対策を棚卸しした際に十分ではないと判断されたのが、対応と復旧でした。従来はテープでバックアップを取得し院内にオフラインで保管していましたが、サイバー攻撃や地域全体が影響を受けるような自然災害に対しては懸念がありました。バックアップデータを書き換え不可能にし、さらに遠隔地にコピーして安全性を高めたい、加えて、この仕組みを限られたリソースで確実に運用できる必要もあります。いくつかの方法を比較し、選択したのがS-iDC バックアップサービス with Wasabiでした。

ソリューション

選択の決め手は、バックアップソリューションのCohesityが、データの圧縮率が高く書き換えできないイミュータブルバックアップを実現できること、さらに24時間365日の運用管理をNECネットワークエスアイに任せられることでした。これと組み合わせてWasabiを採用すれば、遠隔地であるクラウドにデータを確実にバックアップ可能となり、ランサムウェア対策だけでなく、災害時にも重要な資産であるデータを守ることができます。

お客様



業界

公的医療機関

ユースケース

医療情報システム

課題

- 強固なランサムウェア対策構築
- バックアップデータの安全性向上
- 運用コスト効率化

ソリューション

S-iDCバックアップサービス with Wasabi

導入結果

- イミュータブルで安全、コスト効率の高いバックアップ／リストア環境を実現
- 予算通りのバックアップシステム運用が可能となった
- 遠隔地であるクラウドにデータを保管でき、ランサムウェア対策だけでなく自然災害対策ともなった

その上、「容易に拡張が可能なWasabiと組み合わせることで、複数世代のバックアップデータを保存でき、費用もかなり安価に済むのも良いと判断しました」と馬場氏。仮にオンプレミスで長期間の複数世代バックアップのデータを確保するとなれば、スペース、電源、空調といった設備に加え、追加での運用プロセスも必要となりますが、Wasabiならそれらが一切不要なのも評価ポイントでした。

会社のハイパースケーラーも選択肢でしたが、Wasabiは費用対効果が高いと判断されました。安全性、信頼性ではWasabiの可用性SLAが99.9%あり、データ耐久性も11x9s (99.99999999%)と極めて高いことを確認しています。その上で「日本にデータセンターがあるのも安心材料でした」と馬場氏は言います。

ハイパースケーラーのクラウドストレージの場合は、データを入れるのには大きなコストはかかりませんが、データを取り出すのには大きなコストがかかります。インシデントが発生した際にクラウドからデータを取り出し復旧させる際、データが大きければかなりのコストが発生してしまいます。「公的な病院では、そのための急な予算申請は難しいのです」と馬場氏。その点Wasabiなら、いつでも取り出したい時にデータを取り出せます。予算通りにバックアップシステムを運用できるのは大きなメリットだと評価します。

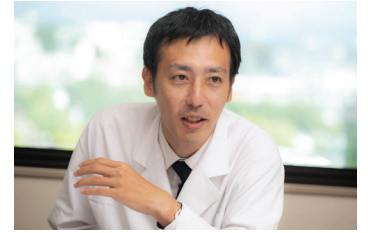
結果

新たなバックアップの仕組みは2023年7月半ばに導入を決定、ハードウェアのデリバリーやWasabiへのネットワーク構築、データ復旧テストなど含め3ヶ月程で準備し、11月1日に本番稼働を迎えました。日本では、ランサムウェアによる病院への攻撃の多くが過去10月31日のハロウィーンに発生しており、それまでの対策が1つのターゲットだったのです。非常に短期間での導入でしたが、サイロ化された多くのバックアップ対象の既存システムについて、馬場氏によるベンダ間の調整もスムーズに進み、技術面での苦労もなく、極めて迅速に進捗しました。CohesityとWasabiの連携も、回線確保やファイアウォール対応も含め順調に進みました。

稼働後はダッシュボードでバックアップ状況が可視化できる上、日次レポートの確認も可能で安心感が高いと馬場氏は評価します。復旧テストも実施し、バックアップデータから確実に戻せることも確認済みです。「Wasabiではなくハイパースケーラーでは、リストアテストでも別途コストがかかるでしょう」と馬場氏は指摘します。

春日井市民病院には、今回の対象以外にも放射線画像データなど重要なデータがあります、今後はそれらについても、コスト効率が高く安全なWasabiにバックアップを取得することが検討されています。「データの安全性を担保するには、環境を分離するエアギャップが必要と言われます。ネットワークで繋がるクラウドは厳密にはエアギャップでとは言えませんが、イミュータブルであればそう考えて良いでしょう」と馬場氏。

S-iDC バックアップサービス with Wasabiは、パッケージで提供され導入も容易で、運用の手間もありません。その上で安全性も拡張性も高く安価に利用できます。そしてWasabiによる遠隔地での保存で自然災害への対策にもなり、経営層からも理解されやすい仕組みだと、馬場氏は改めて評価します。



春日井市民病院
医療情報技術センター 事務局 管理課 情報担当
馬場 勇人氏

Wasabiについて

Wasabiは、データストレージをシンプル、低価格、高速かつセキュアにすることで、世界中のすべてのデータを保存することを使命としています。バックアップ、X線、監視ビデオ、財務データ、メディア、エンターテインメント、科学データなど、保存するデータがあるなら、Wasabiは、常に最も安価で、最も速く、最も安全で信頼性の高いクラウドストレージになることを約束します。それは私たちが実現するすべてであり、他社よりもそれをうまく実行しています。

